

国際広報連絡会議の体制(案)

基本的な考え方

- 主催は国家戦略大臣と外務大臣（官房副長官も連絡会議に参加、各府省庁、関係機関は次官・局長級）
- 事務局は国家戦略室、官邸・国際広報室、外務省
- 会議体の役割：国際広報の重点領域を省庁横断で統一的対応を行う
 - ・各省庁の取組の重複排除・検討内容の緩やかな統一

現在の体制

見直し(案)

国際広報連絡会議の体制案

連絡会議を閣僚級に

連絡会議

内閣官房副長官・内閣府副大臣主催（各省局長級）

連絡会議

国家戦略大臣・外務大臣共催（官房副長官、各省次官・局長、関係機関幹部）

主催：古川国家戦略大臣、玄葉外務大臣
構成員：齋藤副長官、関係府省次官・局長級、関係機関幹部
事務局長：内閣広報官（国家戦略室審議官、外務省局長級が協力）

幹事会：課長級

幹事会：課長級

座長：内閣副広報官（国際広報室長）
（国家戦略室参事官、外務省広報文化交流部総合計画課長が協力）
構成員：関係府省・機関の課長級

分科会：課題毎

分科会：課題毎

従来の分科会での検討事項は基本的に引き継ぎつつ、検討事項に応じ、主管となる府省庁及び関係省庁等によるサブグループを立ち上げ、具体的議論を行う

サブグループ

参考) 国際広報連絡会議の分科会(案)

従来の分科会

ダボス会合分科会

食品安全分科会

国際広告分科会

中小企業支援分科会

改組後

日本ブランド総合発信分科会

- 目的：国内外で行われる国際会議等の機会を活用して海外に日本ブランドを総合的・戦略的に発信する
- 検討内容：来年度の主な国際会議等の機会における発信に関する、1) 関係府省庁・機関間の役割分担・調整、2) 伝えるべきメッセージ内容の検討、3) コンテンツの相互利用
- サブグループ案（主管省庁）：リオ+20（外）、大規模自然災害に関する国際会議（外）、原子力安全（外・経）、IMF・世銀総会（財）、ダボス（P）など

風評被害・リスクコミュニケーション分科会

- 目的：震災による風評被害への対策の実施に係る連携及び各府省庁・関係機関のリスクコミュニケーション能力の強化を図る
- 検討内容：1) 風評被害状況の継続的モニタリング、2) リスクコミュニケーション能力の強化
- サブグループ案（主管省庁）：放射能の影響に関するリスクコミュニケーション（当面の間、官邸国際広報室）

メディア発信分科会

- 目的：我が国として緩やかに統一されたメッセージを各種メディアを通じて重複を排除し、効率的に発信するとともに、我が国の海外への情報発信強化を目指す
- 検討内容：1) 各府省庁・関係機関の国際広告活動の情報共有、2) メッセージ検討、3) 海外への情報発信強化のあり方検討
- サブグループ案（主管省庁）：日本のドラマ等の海外展開、国内外のメディアを通じた情報発信（総）

※その他、検討課題に応じて、適宜分科会／サブグループを設置することにより、機動的な対応を可能にする。 1